

「美しい日本語（日本語教育）」 ～素読からナレーションまでの段階的試み～

本 田 実

1. はじめに

本学で平成25年度より新基礎科目「美しい日本語」（必修）が設定された。対象は1年生、後期の受講となる。以前より「日本語表現法Ⅰ」（前期・必修）「日本語表現法Ⅱ」（後期・選択）があった。また、同様に「プレゼンテーション」（必修）もあり、その差異をどこに求めるかは、そのまま「美しい日本語」の「授業意図」「科目の目標」に直結するテーマである。

「日本語表現法Ⅰ」は、正確な日本語表記の学習と論理的思考の養成に重点が置かれている。また、「プレゼンテーション」は相手の思考や認識、あるいは行動を変えるものと定義している。さらに各自の思考をコミュニケーションによって周囲と共有し、考え方の多様性を理解することでスキルアップすることに狙いを置いている。

そこで「美しい日本語」は、ふだん何気なく使う言葉の中にある「日本語の美しさ」に気づくこと、「美しい言葉」で表現すること、古来、先人が残した「美しい言葉」に触れる機会をもつことなど、「美しさ」をそのままキーワードとした。授業の展開、構成については後述するが、上記の科目と多少重なるものがあることは科目間のつながりの上でプラスになるものと考えた。実際、他の科目担当者と意見交換する中で、お互いに共有できるものがあり、それを担当者同士が理解しあったことが学生の理解とスキルアップにつながることも確認できたことは、非常に有意義であった。また、それをもとに26年度のシラバスを作成することにもつながった。

2. シラバス作成にあたって

（ア）授業の意図として

『古来、日本語は大和言葉と呼ばれ、その表現の美しさ、やさしさなどによって多くの人々の心に残る歌や物語などが生み出されてきた。たとえば、桜の花びらが川面一面に浮かび流れるようすを花筏（はないかだ）と名づけ、秋の露が降りるころには白露と名づけるなど、古人の繊細な感覚・感性には敬意すら抱かずにはいられない。古典・現代文・散文・詩歌に限らず、美しくリズムカルでさらに含蓄のある表現に触れ、くりかえし音読することによって、学生各自の持つ感性を呼びさまし、磨きあげるきっかけになることを願って行う。また、日本人として知っておくべき作品に触れ、それが教養となり、各自の表現

力の広がりにつながる授業にしたい。』

ということをあげた。

各時間のテーマにそって「読む・話す・聴く・考える・書く・まとめる・発表する」ことを行なったが、そこに何気ないものから「感じる心」「気づく感性」を重視した。さまざまなものに自分のアンテナを張り巡らし、そこに引っかかるものを美しく表現することを常に意識させるようにした。そういう点から、感情・感性による表現の自由度を広げた。ただし「美しい」というキーワードをはずさないための枠は、そのつど学生に理解させるよう伝えたつもりである。そのような実践を積み重ねるうちに、学生自身がどのような表現までが美しさを失わないものかを判断できるようになったと感じている。

(イ) 具体的な目標として、シラバスでは①から⑦まで示したが

- ①「名作の冒頭文・名文・名詩・名歌」の10分間素読で、その美しさと作品が醸成してきた精神を感じ取る。
 - ④文章の中から日本の文化や節季などに触れ、日本人としての感性を磨く。
 - ⑤文章や詩歌に込められた作者の心情を感じ取り、自分の言葉で表現する力を養う。
 - ⑦「読む・書く・聴く・話す」をさまざまな形で繰り返し、美しい表現を身につける。
- の4つを特に重視して行なった。

それにつけ加えれば、文章の巧拙だけを評価するのではなく、人柄や心の在り方が「美しい言葉」につながることを大切にしたいと考えている。そういう点をふまえ15回の授業計画を作成した。

	テーマ	目標・教科書
第1講	素読 「吾輩は猫である」 授業の目標を理解 素読の感触をつかむ	【目標】授業の目標を理解する。 基本的な授業の流れのシュミレーションで、次時からスムーズに入れるようにする。 名文の一部分を素読する。自分の表現で文を完成させる。文章に込められた作者の心情を感じ取り、自分の言葉で表現する力を養う。 【プリント】素読用プリント・授業用プリント
第2講	素読 「春はあけぼの」 表現の仕方と文意の骨組みを把握する	【目標】橋本治の「枕草子・桃色訳」をもとに、自分の美しい表現で訳を完成させる。文章に込められた作者の心情を感じ取り、自分の言葉で表現する力を養う。 【プリント】素読用プリント・授業用プリント
第3講	素読 「風立ちぬ」 美しい文を書く基礎を固める	【目標】季節（秋）にまつわる美しい言葉に触れ、その言葉を使った手紙を書く。 【プリント】素読用プリント・授業用プリント

第4講	素読 「小景異情二」 読む・書く・まとめるによって、文を書く基礎を固める。	【目標】グループ活動 新聞記事の中から「愛」を感じるものを探す。 記事の抜き書きと感想をまとめる。 【プリント】素読用プリント・抜き書き感想プリント
第5講	素読「和歌」 (万葉・古今・新古今) 読む・書く・まとめるによって、文を書く基礎を固める。	【目標】グループ活動 前時の新聞記事から見つけた「愛」を発表。 全員の感想発表と評価 【プリント】素読用プリント・評価・感想プリント
第6講	素読 「朝日の色」 読む・書く・まとめるによって、文を書く基礎を固める。	【目標】グループ活動 新聞記事の中から「勇気」を感じるものを探す。 記事の抜き書きと感想をまとめる。 【プリント】素読用プリント・抜き書き感想プリント
第7講	素読 「論語」(学而第一) 読む・書く・まとめるによって、文を書く基礎を固める。	【目標】グループ活動 前時の新聞記事から見つけた「勇気」を発表。 全員の感想発表と評価 【プリント】素読用プリント・評価・感想プリント
第8講	素読 「花のたましい」 表現力の基礎を固める。	【目標】グループ活動 三題断方式による状況説明文を書く。 キーワードを3つ指定する。 題材を「ニュースの創作」とする。 【プリント】素読用プリント・創作プリント
第9講	素読 「人間失格」 表現力の基礎を固める	【目標】三題断方式で検索したニュースを全員発表。 全員の感想発表と評価 【プリント】素読用プリント・評価・感想プリント
第10講	素読 「雲の信号」 表現力の基礎を固める	【目標】グループ活動 三題断方式による情景文を書く。 キーワードを3つ指定する。 題材を「故郷の風景を創作」とする。 【プリント】素読用プリント・創作プリント
第11講	素読 「月下独酌」 表現力の基礎を固める	【目標】三題断方式で創作した「故郷の風景を創作」の全員の感想発表と評価 【プリント】素読用プリント・評価・感想プリント
第12講	素読 「花は盛りに」 ビジュアルな点から言語表現を磨く	【目標】グループ活動 写真・動画のスライドショーに合わせて、美しさや価値観などを表現したナレーションを作成する。 題材を「自然の風物詩」とする。 【プリント】素読用プリント・ナレーション用プリント
第13講	素読 「桜」八木重吉から数詩 ビジュアルな点から言語表現を磨く	【目標】写真・動画のスライドショーに合わせて、作成したナレーションをグループ発表 グループ内での役割分担を打ち合わせておく。 【プリント】素読用プリント・ナレーション用プリント 評価・感想プリント

第14講	素読 「三人吉三郭初買」 ビジュアルな点から言語 表現を磨く	【目標】グループ活動 写真・動画のスライドショーに合わせて、美しさや価値観などを表現したナレーションを作成する。 題材を「超高層レジデンス誕生」とする。 【プリント】素読用プリント・ナレーション用プリント
第15講	素読 「牧水・啄木」 ビジュアルな点から言語 表現を磨く	【目標】写真・動画のスライドショーに合わせて、作成したナレーションをグループ発表。 グループ内での役割分担を打ち合わせておく。 【プリント】素読用プリント・ナレーション用プリント 評価・感想プリント

上記のような計画のもとに実践した。

90分の流れとして上記の計画表には記していないが、最初に5分程度その日のテーマにあうような短い余話から入っている。

その後、名文・名詩・名歌の素読を行なった。まず教師の範読→冒頭先唱による学生の素読→内容や作者、作品の背景を簡潔に紹介→冒頭先唱による学生の素読という形で実践した。これは単に「読む」ことだけにとどまらず、声に出すことにより内容に応じた感情の抑揚が表れるようになった。特に作者、作品の背景を紹介したあとの二度目の素読には明らかな違いがあった。

また、自分のペースで読むことから離れて、耳に入る周囲の声を聞きながら合わせて読むという、他への配慮も感じられた。そのことにより、約40人が斉読するにもかかわらず、ほぼ一つの声として教室内に響き、それが女性の声であることもあって心地よい空気が漂う雰囲気醸成されたと感じたのは、ひとり自分だけであろうか。

さらに、素読の意味についてはあらかじめ伝えた上で始めたのであるが、そこではあえて触れていなかった期待が表れた。それは素読をする時の姿勢である。前もって姿勢を正すことは一切言わなかったが、回数を重ねる、それも3回目あたりという早い段階で背筋が伸びた美しい姿勢になった。それがしっかりした発声につながったことも否めない。さらに言えば、だらしない姿勢から美しい言葉が生まれるとは思えない。このような美しい姿勢を身につけることで美しい言葉が生み出される可能性を感じた。

第1講から3講までは書くことの基礎的な点に重点を置きながら、個々の感じ方で表現する内容である。第4講から第7講は新聞記事から「愛」「勇気」という抽象的なものをとらえる活動を行った。グループ活動を通して、互いの感性からとらえたものを共有し、その多様性に気づきながら一つのテーマに絞っていき、その記事のどこにどんな「愛」や「勇気」を感じ取ったかをまとめるものである。その過程で「愛」や「勇気」などの形のないものが実は身の回りにあふれるほどあることに気づいていく。

第5講と第7講は各グループからの発表である。各グループがどのような記事を選んだかは、すべてプリントとして配布し、代表者がその記事を紹介することで全員が共有できる。その上でグループ員がどの部分からどのような「愛」や「勇気」を感じたのか、その

感想を述べる。他のグループの学生はそれを聞き取りメモをとる。グループ員の発表が終わった段階で、3～4分の時間を与え、各自その発表に対しての感想や評価をまとめる。これを各グループの発表ごとに繰り返す。

この方法によって聞き流すことはできず、かなりの集中力が要求される。感想に対する感想・評価によって内容をより深くとらえることができ、それぞれの感じ方を広く共有することができる。そこに自分では気づけなかったものへの驚きや感動が生まれる。また言いつ放し、聞きつ放しという不誠実さを排除できる。この姿勢が、(イ)の具体的な目標で述べた「巧拙だけを評価するのではなく、人柄や心の在り方が『美しい言葉』につながることを大切にしたい」ということである。

第8講から第11講は「三題漸」を応用したものである。三つのキーワードを与えるわけであるが、あえてグループ活動にしている。最終的には個々で結びつけた作品を創作することになるが、グループの中で互いに一つのキーワードからイメージするものを出し合い、互いに創作のヒントにするためである。ばらばらにそれぞれの課題として与えるよりも、意欲の面でも効果があると考えている。

できあがった作品については、第5講以降に行った方法と同じように互いの作品に対しての感想や評価を行う。

このような形で、「読む・話す・聴く・考える・書く・まとめる・発表する」に「感じる心」「気づく感性」を育みながら、「美しく表現する」という段階を少しずつ上っていきけるように構成してきた。これらを土台にしてビジュアルな点から言語表現をさらに磨くことを目標として、最終段階に入る。

3. ビジュアルな点から言語表現を磨く試み①

(ア) 準備と実践方法

写真1枚各30秒ずつ10枚のスライドショーを作成した。学生はグループに分かれそれに合わせたナレーションを作成する。グループは4～5人なので、一人2～3枚を担当することになる。そこでまず以下の順序で準備をさせた。

- ① 誰がどのスライドを担当するか。
- ② それぞれ担当のスライドについてナレーションを作成する。
- ③ でき上がったものは、その段階でそれぞれの主観で創られたものなので、全体としてはつながりがない。

そこで、それぞれの部分をグループ内で照らし合わせ、一つの物語ができ上がるよう前後の流れを考えて修正する。

以上の点を確認した上で制作にあたらせた。

この間、スクリーンにはスライドショーを流し続け、約30秒の時間内で語れるものになるように配慮した。

また、学生の手元にはスライドショーの順序通りの写真を印刷したプリントを配布してある。

作成するグループのようすを机間巡視によって観察した。その折に学生からの質問を受けたが、ヒント程度にとどめた。指示に従って自分の担当のナレーションを作成したあと、次のことを再確認した。

- ① 他者の作成したものを自分のプリントに写す。
 - ② グループ内で1枚目から通して、全員で流れを確認する。
- 修正の仕方は各クラス・各グループによって、それぞれの工夫がみられた。

(イ) 授業の実践例

第12講で行なった「ビジュアル」のスライドショーは「自然の風物詩」と題して、取り組みやすいものにした。内容は「秋」の風物である。

以下に、各クラス・各グループの作成したものの中から2作品を掲載する。

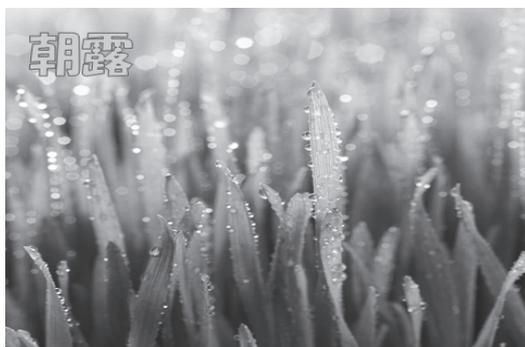
【Cクラス・Aグループ】

①「スタート」



暑かった夏も終わり、季節はいよいよ秋。
日が暮れる時間が日に日に早くなり、朝晩は特に冷え込みます。「寒い寒い」という声が町中で飛び交う一方で、美味しい食べ物が人々の食欲を満たす、そんな季節がやってきました。

②「朝露」



肌寒い朝を迎えた秋の朝。
朝のやわらかな光に包まれて、澄んだ空気の下に鮮やかな緑色のじゅうたんに散りばめられる透明の水玉が、光にあたってきらきらと輝いています。
その光景を見られるのも冷えた朝のみです。徐々に朝から昼、昼から夕方へと移り変わっていきます。

③「鈴虫」



雄と雌の営みはいよいよ激しく、その鳴き声は生命の応援歌でしょうか。
子孫を残すべく本望を達したあとに、雌は雄を食べてしまう宿命に、「鈴虫」という愛らしい名前をもらっただけで幸せです。

④「すすき」



鈴虫の気持ちの込められた大合唱が行なわれている傍ら、2mにも及ぶ長身のすすきが、秋風に気持ちよさそうに揺られています。群がって生えているため、揺られるたびにさわさわと音をたて、時には秋の冷たい風に何かを訴えかけているかのようです。

⑤「菊」



高貴・高潔といった花言葉にある通り、秋になると気高く鮮やかに咲き誇ります。また日本を象徴する花でもあり、菊まつりなどのイベントも多く開催されています。この時期に菊を咲かせて楽しむことは、最もぜいたくな趣味といえるでしょう。ちょうど今、菊を鑑賞するのもいいかもしれません。

⑦「紅葉」



道路の端に立ち並ぶ木々は、秋になると一面真っ赤に色づき、真っ青な空を背景に、美しい光景を見せてくれます。赤と黄色が入り混じった姿や、燃えるような赤に彩られた道路が、私たちに秋の世界へと誘ってくれているようです。

⑥「きのこ」



森の妖精に貸してあげたくなるような、小さな傘。キノコの群れは目立ちやすく、いかにも「召し上がってください」と声が聞こえそうです。真夏にはまだ土の中から挨拶はしませんが、10月のカレンダーにめくられたころから、キノコは山の中で微笑みかけてきます。

⑧「柿」



紅葉と同じようにきれいにオレンジ色に染まった柿です。画面の中には美味しそうな柿が7つ写っていますが、そのうち1つか2つはまだ甘味が十分でなさそうです。食欲の秋にふさわしい食べ物として楽しんでください。

⑨「中秋の名月・お月見」



月が満月になり、あたりをきれいに照らすころ、縁側で子どもたちがだんごをほおぼりながら、楽しそうに話しています。月の中にうさぎがもちつきをしているようすを探す子どもたち。きれいなまん丸の黄色い月を指さしながら、「見つけた！見つけた！」とうれしそうに笑っています。少し肌寒い夜、秋を感じた一日でした。

⑩「晩秋から初冬へ」



晴れの日も徐々に少なくなり、雨の日が増え、ついに雪が降り始めました。赤や黄色だった木々は茶色になり、少しずつ雪によって白く彩られていきます。秋は終わって、冬がだんだんと深くなっていくのです。

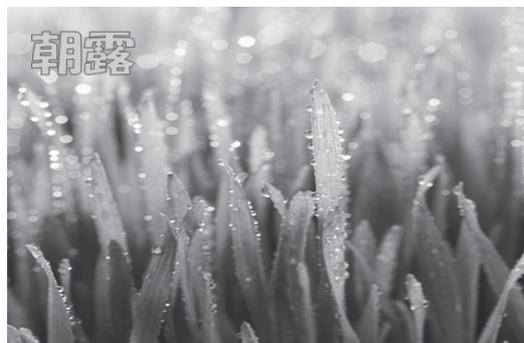
【Dクラス・Bグループ】

①「スタート」



変わりゆく季節の中で、ゆっくりと流れる時間は私たちの心を癒し、ゆとりを与えてくれます。自然の暖かさ、力強さ、美しさを少しばかり紹介させていただきます。日常では気づきにくい自然の変化を見いきましょう。みなさまの心に癒しを与えることをお約束します。

②「朝露」



寒い朝、外にでてみると、植物の葉の表面に水滴がついています。キラキラ光る透明の球体は宝石のように美しい輝きを放っています。しかし、時間がたてばはかなく消えてしまいます。この時にしか出会えない光景がそこにあるのです。草々の中をよく見てみると、すずむしがいました。

③「鈴虫」



あれ？何か聞こえてきませんか？
これは秋になると聞こえてくる虫の音ではありませんか！
りーん、りーんと鳴くこの声は鈴虫です。小さい身体であの素敵な音はいったいどこから出しているのでしょうか。
皆さんもっと耳をかたむけてみませんか？

⑤「菊」



こちらは菊ですね。菊の花言葉は「高貴」「気高い」といった意味がありますが、日本では皇室の象徴であったり、日本の硬貨にも描かれています。
今年も10月から11月に、東京で菊花展が開催されました。
この写真はその時のものです。

④「すすき」



さわやかな秋晴れの日。
風が涼しく吹いています。緑っぱいの草原の中で、すすきの穂が風に舞って美しく光っています。
それは秋の空に映え、眼にまぶしいくらいです。
草原に穂を垂れ、風に舞うその姿からは、強い生命力が感じられます。

⑥「きのこ」



一方、こちらは「ヒトヨタケ」。
春から秋にかけてニョキニョキと現れます。可愛らしく、お吸い物に使われます。
毒はなく、銀河鉄道999や、宇宙戦艦ヤマトを描いた松本零士さんは、「さるまたけ」と称して漫画の題材にしたというエピソードもあります。

⑦「紅葉」



木や山を見てみると、葉が赤や黄色に染まっています。とても鮮やかで、見ているだけで癒されます。
葉が落ちて地面に赤いじゅうたんが敷かれています。
そこを散歩してみてもいいですね。
川や湖に紅葉に染まった木や山が映し出されていてとてもきれいです。

⑨「中秋の名月」



秋風に流れる雲の隙間から、真っ黒な空を背景に浮かぶ銀色の月が見えます。
その月は少し黄色がかっており、丸い美しい形をしています。
縁側で真っ白なもちを食べながら、お月見をしましょう。

⑧「柿」



食欲の秋です。
秋といえば、栗、さんま、さつまいもなど、たくさんの食べ物が食欲をそそります！
その中で、今回紹介したいのは「柿」です！！
柿は色も鮮やかで食感もよく、秋にはもってこいの食べ物です。
この柿は甘味も強く、人気の一品です。

⑩「晩秋から初冬」



肌を刺す寒さに体を震わせる季節が訪れます。
ひらりひらりと宙を舞う雪が地に積もり、雪化粧をほどこします。吐く息はだんだんと白くなり、寒さを目で見ることができるようになってきます。
各家では暖を取り始め、鍋がおいしく感じられる季節がやってくるでしょう。

(ウ) 授業の展開

上記の発表例について

① オープニング (スタート)

オープニングの入り方は、最も個性が表れていた。他のグループのものを紹介すると、

(D クラス・A グループ)

『これからお話しするのは、日本の自然の風物詩です。日本では春夏秋冬と四つの季節がありますが、今回ご紹介するのは「秋」です。秋は動物も植物もさまざまな変化を見せてくれます。さあ、秋をのぞいてみましょう。』

(D クラス・E グループ)

『夏の暑さも和らぎ過ぎしやすい気温になってきました。セミの鳴き声も少なくなり、秋の虫たちが泣き始めています。葉も緑から赤や黄色へと色づいたり、散っていつたりしています。澄み切った空気と気温のお陰でとても晴れ晴れとした気分になります。朝晩の肌寒さもどこか心地よさすら感じられます。』

(A クラス・A グループ)

『風物詩とは、ある季節特有の現象や味覚、生物・祭事などのことを言い、その季節をより意識的に特徴づけることができる物や事柄のことです。今回は自然現象や生物、植物の写真を見ながら秋の到来や節目についてを見ていきたいと思います。風物詩の範囲は広く、俳句の季語として限られたものと違い、日本の季節を私たちの心に訴えかけてくれます。』

など、スライドにとらわれない入り方をしているものがかかり見られた。もちろん、スライドを美しく表現しながら秋への誘いを述べたもの、また、スライドに見えるものから秋の夕暮れの空気感や夜へ向かう時間的な変化などを表現したものなど、学生たちの意欲が最も感じられる一枚だった。

教師側としても、オープニングにどの写真を置くかはかなり神経を使った。いきなり秋の代表的なものから入るといった手法もあったかもしれないが、ピンポイントより全体として自然に導入する、しかもどのようにでもイメージを広げられるものの方がおもしろいものができるかもしれないという期待を持った。

言葉や絵画などでも言えることであるが、抽象的なものを示された場合、それを具体化するには知識が要求される。それそのものの知識だけではなく、その背景や変遷や関連するものなどの情報が広ければ広いほど、それらをつなぎあわせ「見ればわかる」から、聞く人に「想像させる」ものを作り出すことができる。この試みでは、その上に「表現の美しさ」を求めたのであるが、多少月並みではあっても学生たちが心の眼で見ようと努力したことが感じられる作品になったと思う。

上に載せた学生の作成した2つの作品について、②「朝露」から⑩「晩秋から初冬」まで、他グループの学生がどのような評価をしたかを以下に示す。

【Cクラスの各グループに対する感想・評価】（ただし自分のグループの分は空欄）

A	<p>日の照る時間の差で季節を伝えるのは素敵だなと思いました。 鈴虫の場面はだいぶん激しかったです。秋らしさというより、鈴虫の生命力が感じられました。菊の花ことばが「高貴」だと知らなかったので感動しました。すすきが風に揺れる音なども伝わってきてよかったです。 柿の表現で、おいしそうだけど、このうち1つか2つまだ渋みがありそうというところに細かい感性が入っているように感じてよかったです。 子どもたちなどのようすを想像させて、月の表現を豊かにしているようにも感じました。 秋から冬に移り変わる場所も、木々のようすで表現されているのもよかったです。</p>
B	<p>初めの導入部が自然への興味を持たせてくれました。 みんなに話しかけるタイプの文章の書き方の人が多くて、聞いていて楽しかった。 ヒトヨタケはニョキニョキとあらわれるというところの表現にかわいらしさを感じました。 柿のこと以外にも他の秋の食べ物の話をするので、秋らしさが高まってとてもよかったです。 冬への移り変わりの場所も、雪や白い息の表現がきれいだったと思います。</p>
C	<p>露のはかなさが伝わった。鈴虫の羽の形がハートであることから可愛さやロマンチックな部分を表現できてよかったです。菊の花の色も違いによって花言葉が違うことは知らなかった。下に落ちる前のきれいに紅葉した葉が、ただきれいだけでなく、はかない最期というところの表現がよかったです。 冬は皆があまり動きたくなくなる感じも、静かという言葉から伝わってきた。</p>
D	<p>秋をのぞいてみましょうという導入がよかった。 露が汗をかいているみたいという表現も、他の人たちと違っておもしろいと思う。鈴虫がうるさいというのも、気持ちがわかった。すすきの部分の風に揺れる表現もよかった。ヒトヨタケが「こんにちは」とあいさつしようと、人にたとえた表現もよかったです。 雪が冬と結びついて、ご飯には鍋が合うというのも想像できてよかった。</p>
F	<p>日照時間や体感温度などで秋らしさが伝わってきた。 露は一つずつ競争しているという感じがおもしろかった。鈴虫がナスが好きだと初めて知った。 菊の色や形が一つ一つ違って個性があるというのは素敵。葉っぱの部分も紅葉した葉が道に落ちている風景が頭に浮かんだ。また、日が沈む様子を、太陽が眠るという表現がよかった。</p>
G	<p>露を人生のはかなさにたとえた表現がよかった。鈴虫がいつも鳴いていることから働き者という表現はおもしろい。菊を果実にたとえる感覚はすごいと思った。ジブリに出てきそうなキノコというのは、まさにそうだと感じました。 また、紅葉を秋の祭りという表現したところや、赤子の手にたとえている点もおもしろいと思います。柿に防腐効果があることを知って驚きました。いろいろな面から調べてあると思います。冬のにぎわいもよく伝わったし、全体として語りかける言葉が多くて聞きやすかったです。</p>

【Cクラスの各グループに対する感想・評価】（ただし自分のグループの分は空欄）

B	<p>一連の流れがしっかりとっていて、とても聞きやすかったです。 何回か私たちに語りかけるような内容に癒されました。最初と最後の文章がしっかりとっていて、季節が秋から冬へと変化していくのが想像できました。</p>
C	<p>一つ一つの映像から、主観的な考え、さまざまな情報などを伝えていて、個人の価値観を知ることができました。また、教養を増やすことができる、そんなナレーションだったと思います。 短い文章で的確に伝えていて素晴らしいと思います。</p>
D	<p>植物を人にたとえるなどの比喩を用いている表現が多くあり、発表している人の温かさが感じられました。ナレーションというと静かなイメージがありましたが、楽しいナレーションでよかったです。</p>

E	朝露、すすき、鈴虫の3枚は、流れがわかりやすくすごいなと思いました。俳句をまじえたところも良かったです。 グループ全員が自分の担当した映像だけではなく、他の映像とも関連づけているところがよかったなと思います。
F	グループひとりひとりの感性が分かる、そんな発表だったと思います。 耳に入ってきてすばらしいと思いました。
G	秋を全体的に温かいイメージにたとえている発表だったと思います。ほとんどの映像で、語尾が語りかけているようだったので、思わず「うん、うん！」とうなづいてしまいました。

【Cクラスの各グループに対する感想・評価】(ただし自分のグループの分は空欄)

C	(秋の夕暮れの)神秘的な瞬間、虫のオーケストラ、ハートの羽(の鈴虫)、踊りながら秋風を運んでいる(すすき)、愛の感じられる花(菊)、長い眠りに入る(初冬)、など、たくさん美しい表現が入っていて、とてもよかったです。一つ一つの風物詩に対してとても分かりやすいナレーションだったので、聞き心地がよかったです。
D	生活しやすい環境、葉っぱたちは汗をかいている、幻想的、こんにちとは声が聞こえてきそうという素敵な表現もあり、疑問形の言葉で文を締めくくることによって、次のナレーションが気になりながら聞くことができました。
E	マツ虫がチンチロリン、日本らしい風情、女性のスカートのように、カラスがキラッと、など、Eグループはとてもおもしろくて、聞いていてとても楽しかったです。 また、次のナレーションとつなげていたところがいいなと思いました。自分の知らない豆知識や情報を知ることができました。
G	季節にとっても恵まれた国、たわわに実った果実のよう、赤ちゃんのてのようなもみじ、秋のお祭りのよう、などきれいな表現が多くあって、上品なナレーションだったなと思いました。 また、一つのスライドに対しての説明がとても分かりやすく、聞きやすかったです。

上記の評価表から、先に掲載したCクラスAグループ・DクラスBグループ以外のグループの発表内容がどのようなものであったか、多少は察していただけるかと思うが、いずれもグループとして機能している点は認められると思う。

シラバスにあったように、第4講以降、グループを固定して互いのコミュニケーションがとれる場を多く取り入れてきた効果の表れと考えている。

(エ)「各グループに対する感想」のまとめ

上記の3グループの評価をまとめてみる。

①『スタート』

「秋は夕暮れ」「秋をのぞいてみましょう」「日照時間や体感温度などで秋らしさが伝わってきた」「秋の夕暮れの神秘的な瞬間」などの表現に対して、導入のしかた、秋らしさ、美しい表現という評価をしている。

「秋は夕暮れ」は言うまでもなく枕草子・春はあけぼのの一節であるが、素読でも使ったものであるため、その記憶から引き出されたものであれば、15回の授業につながりができていることになるのだが。

先にも述べたように、駅伝でいえば第1走者はチームのエースが走るように、担当者自身にも強い意識が感じられ、それぞれの工夫を凝らしたオープニングが多かったと思

う。実際担当者を決める段階で、オープニングを誰が担当するかがグループ内で最も時間がかかっていた。そのような意識を持って取り組んでくれたことが、他のスライド作成に影響を与えていることは間違いないと思った。

②『朝露』

「露を人生のはかなさにたとえている」「透明の球体」「透明の水玉」「朝露を見られる時間の短さ」「宝石のよう」「ダイヤモンドが散りばめられた」などの表現に対する反応が多かった。『朝露』の表現は、もっとまとめれば「はかなさ」と「美しさ」と言えるが、その周囲に「緑の草原」や「太陽の光」がからむことで表現に美しさをより強調しようという意図がみられる。

③『鈴虫』

「鈴虫の羽の形がハートであることから可愛さやロマンチックな表現」「虫のオーケストラ」「マツ虫がチンチロリン」などの表現に注目が集まっている。スライドの鈴虫を見ると、羽をこすり合わせて音を出しているシーンだと思うが、確かにこの時合わさった羽はハートの形に見える。学生たちは女性ということもあり、最初このスライドに対してはむしろ不気味さが先に感じられたようで、最も不人気な声があがっていた。あまり虫に興味を示していなかったが、どんなものの中にも良さや魅力があることに気づいてくれたようである。その良さや魅力に気づくために、嫌い・気持ち悪いなどといった感情を整理するエネルギーが必要である。このことは対人関係でも同じだということにつながればこの授業の理想に近づける。

また、数人の学生は①②③の3枚の流れ（つながり）が良いという評価をしている。聞く側の姿勢もうかがえる感想・評価である。

④『すすき』

「すすきがゆらゆらと優雅に揺れる」「踊りながら秋風を運んでいる」「すすきの揺れるようすが女性のスカートのように」などの表現は美しさと具体性があるイメージしやすいという評価であった。そのほかには、すすきの花言葉「活力」に触れ、生命力の強さに驚く内容のもの、すすきの穂のことを「花穂（かすい）」ということなどの紹介をしたものもあり、自分の知らない豆知識を得られたという感想も多かった。

事実、担当者を中心としていろいろな面からよく調べ、いくつかの情報のどれをどう使うかという活動が行なわれていた。

⑤『菊』

「菊の色や形がひとつひとつ違って個性がある」「菊の花の形を果実にたとえるのは独特の発想」などの感想が目についた。菊の花言葉に触れているグループが多い中、平安時代に遡って愛され続けていることを述べたもの、菊にまつわる習慣を紹介したものなどもあった。「すすき」同様、身近にあるものには、単純に見ただけのナレーションは面白味がないところから、それぞれの発表者の工夫が感じられた。

⑥『きのこ』

「きのこ」とひとくくりに言うが、何を選ぶかは教師側の苦心したところである。身近なものが続いたので流れからいうと変化をもたせたいタイミングである。色合い、形などで女子学生が好みそうなものを探してみた結果、「ヒトヨタケ」にした。画像としての評判はよかった。しかし、初めて耳にする名前なのでかなり戸惑っていた。活動中最も質問の多かったのがこの「ヒトヨタケ」である。

「ヒトヨタケが現われる表現に可愛らしさを感じた」「ヒトヨタケがこんにちとはあいさつしそう」というもの、さらに「ジブリに出て来そうなキノコ、というのはまさにそうだ！と感じた」などの感想からもわかるように、童話風に表現したものが多い。また、「ヒトヨタケ」の性質に触れたものや「一夜茸」という名前の由来から、はかなさを伝えようとしたものまで、結果的にはかなり広い内容のものになった。

⑦『紅葉』

「紅葉の色で空気は冷たいが心は温くなる」「ライトアップされた紅葉が幻想的」「紅葉は長く続かないからこそ美しい」「紅葉を秋祭りと表現している点」「キャンパスに描かれる色彩の変化がイメージできた」。

「紅葉」のナレーションはわりあい平凡な表現になりがちという予想をしていたが、「心が温くなる」「はかなさや秋祭りへの連想」「キャンパスに描かれる色彩の変化」などは、それを良い意味で裏切るものだった。

⑧『柿』

「紅葉」と同様に「柿の実」のスライドも、どう表現してくるか非常に興味があった。「葉が散った木にオレンジ色の柿の実が生っているところに風情がある」という表現をしたグループがあったが、他の学生は肯定的に受け止めていた。

松尾芭蕉の「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の俳句を引用したもの、また、「オレンジ色に熟した柿の実を、カラスがキラッと黒い目を見開いて狙っています」というナレーションに対して、話し方を含めておもしろく、聞いていて楽しかったという感想を述べている。スライドには葉が散った枝に数個の熟した柿の実が映し出されているだけ。カラスなどどこにもいない。しかし、そういえば家の柿の実もカラスに突かれている。発表者もそういう経験があったのか、平生の生活感から生まれた表現だろう。

⑨『中秋の名月』

このスライドについては「月」の美しさよりも行事としての「お月見」に触れたものが多かった。月の美しさを語れば、それこそ月並みな表現にしかならなかったのかもしれない。先に紹介したDクラス・Bグループの「秋風に流れる雲の隙間から、真っ黒な空を背景に浮かぶ銀色の月が見えます。」というものが、中では印象に残ったものである。むしろ、月見だんごを中心に置いてスライドにはない子どもを登場させ、家族のだんらんを想像させるものが多かった。

その点からみると、最も表現しにくかったのは「中秋の名月」だったことが分かる。

⑩『晩秋から初冬へ』

スライドは枯野に初冬の小雪がひらひら舞い、かなたの山の姿がうっすらと見えるものである。

「冬は紅葉の代わりに枝に霜が降り、山のうっすらとした冬化粧も季節の楽しみのひとつ」という感じ方は、スライドから読み取れるところから「季節のうつろいを楽しむ」ことへ発展させている。

「枯野と雪」を黒と白の世界と水墨画をイメージさせる表現もあった。

そのような表現を受けて、「季節が秋から冬へと変化していくのが想像できた」としている。

最後に、第12・13講全体を通しての感想・評価をまとめる。

「語りかけてくるようなナレーションで、聞きやすく夢中になって聞くことができた」

「ストーリーとして最初から最後まで自然な感じにつながっていたのでよかった」

「事実の説明と文学的な表現がちょうどよい感じにつながっていたと思います」

批判的な内容のものは全クラス（約120名）を通して見受けられず、良かったと思われるものについての感想・評価がほとんどであった。自分にはこういう視点は気づかなかつた、こういう比喩的な表現は思いつかなかったというように、自分たちのグループの発表したもの、個人の担当した部分について違う表現をしていることを認め、評価している。

素読を通して美しい文や詩歌等に触れる機会を持ち、段階を踏みながら今回の試みまでたどり着いたわけである。仕上げの段階とはいえ、そう簡単に格段に文章能力があがるわけではない。しかし、考える以前に書くこと自体に苦手意識を持っていたことを考えると、短い文ではあるが、いろいろな情報を取り込もうとしたり、グループ内でのコミュニケーションが活発になったり、意欲的に取り組む姿勢は確実に成長したと思われる。

それは、発表例やそれに対する他学生の評価内容でも明らかである。

1回目の「ビジュアルな点から言語表現を磨く」での各自の気づきを最後の2時間に活かして、総仕上げとした。

4. ビジュアルな点から言語表現を磨く試み②

(ア) 第14講は「超高層レジデンス誕生」と題し、写真1枚各30秒ずつ10枚のスライドショーを作成した。これは第12講と同じ構成である。活動方法も同じグループで、担当の決め方や発表の仕方も同様とすることを伝えた。前回は「季節の美しさ」を表現することに重点を置いたが、今回はレジデンスの環境、施設、生活の空間としての心地よさをどのように表現し、いかに住みたいと思うような表現ができるか。

前回よりプレゼンテーションの要素を取り入れているところが、14講の特徴である。

(イ) 授業の実践例

以下に、各グループの作成したものの中から1作品を掲載する。

【Fクラス・Aグループ】

①「スタート」



東京の海沿いに2013年12月に超高層レジデンスが誕生しました。

2014年4月から入居者の募集開始です。

50階建てで、周囲のビルよりはるかに高く、晴れた日には遠く富士山を眺めることができます。海の近くに住みたい方にはおすすめです。

②「万緑の緑」



建物の周りにはたくさんの緑に囲まれており、エントランスの前には日本庭園が広がっています。春には桜の花びらが池に散る美しい風景も鑑賞でき、日本らしい風情の感じられるお庭が皆さんをお迎えします。ご近所の方やご友人を誘って、桜の木の下でお花見を楽しむこともできます。

③「東京の夜景」



この夜景をご覧ください。

目の前に広がる夜景は東京ならではのものです。暗い夜に輝く高層ビルの小さな灯りは、星の光とはまた違う幻想的な光です。家族や恋人との夕食、この夜景は特別な夕食をあなたに届けるでしょう。また夜景を見ながら飲むシャンパンは一味違うものになるでしょう。

すてきなこの夜景を一人占めしてみませんか。

④「2階までの吹き抜け」



窮屈さを感じさせない2階までの吹き抜け。大きな窓から見渡すことのできる夕日。きれいですね。

オレンジ色の照明に包まれたロビー。温かで、どこか高級感あふれる空間。

ひとときの休息にはぜひいたくな空間。

この広々とした空間でコーヒーでもいかがですか？

⑤「ガーデンラウンジ」



こちらは天井が高く、見晴らしの良いガーデンラウンジです。

室内にいながら、まるでお庭にいるような解放感を与えてくれます。

またホワイトとブラウンの色合いによって、心地よさと品格を備え、存分にくつろいでいただけるかと思えます。

⑦「ジム」



こちらはジムになります。

30種類もの器具がそろっており、最新器具も続々入ってきています。日本で最大級のジムであり、プールと同様、年間いつでも使い放題となっております。

この部屋は一面ガラス張りとなっており、外には庭が広がっています。四季の変化を感じながら体作りをしてみませんか？

⑥「プール」



こちらはマンションにお住いの方、誰もがご利用できます。冬は温水プールとなり、どの季節も快適にお楽しみいただけます。

夜は水中に設置されたライトが七色に光り、昼間とは一味違うプールになります。

さらにガラス張りとなっているため、少し泳ぎ疲れた時は、ベンチにゆったり腰かけて外の景色をお楽しみいただけます。

⑧「バーベキューコーナー」



このマンションには何とバーベキューコーナーもあります。食材を持ち寄るだけで、道具はすべて貸出無料です。

さらに少人数プランと大人数プランがあり、料金を支払うだけで新鮮なお肉やお野菜をお召し上がりいただけます。

季節のフレッシュなフルーツもご用意しております。

ご近所の皆さんと交流を深めるためにはピッタリの場所です。

⑨ 「ゲストルーム」



当マンションでは各1室、ゲストルームが備えられています。
 日常から離れ、落ち着いた優雅な雰囲気を味わえます。
 ご友人を呼んでのホームパーティーや軽いお茶の時間にも適しています。また、夜景をバックに大画面スクリーンで映画を楽しむこともできます。

⑩ 「キッズルーム」



キッズルームです。左側はお子様遊ぶ場、右側はカフェテラスになっております。
 マンションのお子様の交流の場となり、ご近所の方々と一緒にカフェテラスで飲み物を飲みながら、お子様が安全に遊んでいるほほえましい姿を眺めることができます。
 お子様も楽しく過ごすことができる空間です。

*写真は、SKYZ TOWER&GARDEN（東京ワンダフルプロジェクト）My 不動産
 予告広告用を使用させていただきました

（ウ）「各グループに対する感想」のまとめ

第14講は既成のものを使い、前回よりプレゼンとして現実にあり得る内容にした。その中にこれまで繰り返してきた「表現の美しさ」「感性の表現」をどの程度学び得たか、また、それぞれが自由に発想したものをグループの共同作業としてどの程度機能したかの確認をする活動となった。

Cクラス・Eグループ及び、上に掲載したFクラス・Aグループの作品についての他学生の感想・評価を以下に紹介する。

【E・Fクラスの各グループに対する感想・評価】（ただし自分のグループの分は空欄）

B	「ワンダフルプロジェクト」と名前をつけていたのはBグループらしいなと思いました。おもしろかったです。ただの夜景ではなくて、東京の名所「東京タワー」が見えると思ったらお得感があります。花火のことについて述べるのもアイデアがあってとても良かったです。
C	玄関の説明で、あのレジデンスで気にかけていた自然について触れていてよかったです。夜景の説明はきれいでした。車のライトなどについて触れた所は視野が広いなと思いました。 「心地よい」「リラックス」などの言葉で和やかな雰囲気がでていました。2階までの吹き抜けの説明の中で、私たちを迎えるという表現がきれいだと思います。言葉の選び方を見習いたいです。また、みんな時間がぴったりで終わっていたのがすごいなと思いました。

D	ほかにはない、ここだけの自慢できるものをピックアップしていたので、聞いていてなるほどなあと思いました。強みがあるというのは魅力的ですね。内容も具体的な言葉を使い分かりやすかったです。マイクの音量も聞きやすかったです。 また、いかにも「不動産屋です！」というすばらしいナレーションでした。話し方がとても上手でしたし、説明も細かく引き込まれてしまいました。
E	このグループは「明るい」「開放的」という言葉を使っていました。確かに開放的だなあと 思いながら聞いていました。また「交流」という表現もこのグループの個性が出ていたと思 います。 ただ、「です・ます調」の人と「だ・である調」の人がいたので、そろえた方がよかったな と思いました。
F	「万緑の緑」のナレーションがすごくよかったです。「桜の花が舞い、水面にひらひらと落 ちていく様子が」という表現がきれいだと思いました。ほとんどの人が景色と結び合わせて いたので、このグループが最も表現し伝えたいのは景色かなあと感じました。

それぞれのグループの表現の工夫は12講での経験を生かしていることを感じた。どんな言葉を使って魅力を伝えようかという点に苦心したことも感じられた。また、言葉だけにとらわれず、10枚のスライドのつながりはもちろん、14講で目立ったのは話し方である。前回のナレーションとは違い、今回はマンションの良さを伝えるだけではなく、住みたいという気持ちにさせられるかという点をかなり意識している。その点から単に原稿を読むという姿勢では難しいことをよく理解し、かなりはっきりとした口調で話す学生が増えた。

もちろん12講のナレーションは口調がはっきりしなくてもよいわけではない。当然、何を語っているのか、何を伝えているのか、はっきり聞こえなくては伝わらないことには違いはない。今回の発表ではテーマの違いを理解し、それに応じたはきはきした語り口になったのは収穫だったと思う。

(エ)「各グループに対する感想」の評価

【C・Dクラスの各グループに対する感想・評価】（ただし自分のグループの分は空欄）

A	建物が私たちのニーズをすべて満たしてくれるというのが、ぐっと引き込まれました。ストレスが消えるならすてき。都会東京の輝く夜を全部楽しめるのは高層マンションならではだ なと思いました。ドリンクバーのあるガーデンラウンジでのんびり、だけどよく運動も！と いうところもよかったですし、冬でも使えるスポーツ施設はトレーナーつきというのもアイディ アとしてよかったです。
---	---

「建物が私たちのニーズをすべて満たしてくれる」という評価は、Dクラス・Aグループの発表に対したものである。この部分をスタートの①「超高層レジデンス全景」で次のように表現していた。

「24時間ご利用できるサービスだけでなく、セキュリティシステムも万全となっており、最上階には会議室にも使える共有スペースも複数あり、それぞれの部屋を解放して使うなど多種多様に対応でき、快適な生活をご提供できると思います」

全体をくるんだスタートの仕方、聞く人の気持ちをを一气につかもうという意図が感じられるものである。

この感想を書いた学生はみごとに引き込まれたということだろう。

B	セキュリティシステムの良さや会議室もあるということでの特別感、エントランスの癒しというのが、毎日通る場所なのでいいなと思いました。マンションの価格は7,000万円ということですが、吹き抜けの広い空間のあるロビーなどはその価値があると感じられました。プールはジャグジーやシャワーもあるということで、のんびりと使えるなと感じました。家庭のだんらんキッズルームを使うというだけでなく、スタバがついている発想もおもしろい。
---	---

このグループは実際に My 不動産 SKYZ TOWER&GARDEN (東京ワンダフルプロジェクト) を調べており、すべてが事実というわけではないが、ところどころに自分たちのイメージが散りばめられているところに面白味がある。My 不動産様には授業の一環ということで、架空の部分についてはお許しをいただきたい。

「プールのジャグジー」「スタバ」、さらにここには述べられていないが、キッズルームについては「託児サービスを行っており、6:30~21:30 までご利用できます。お申し込みはサービスカウンターまで」というふれ込みがあり、どこまでが事実でどこが架空なのかという不思議な世界を創り出している。

C	天気の良い日に富士山が見ることが可能という部分に、おお！と感動した。木の葉の色が変わるといっても、何年も住んでみたいと思います。吹き抜けの上品な感じや選ばれたものが置かれていることが好感度を上げます。プールは清潔さが命だと思いますが、そこに触れていたのがよかったです。バーベキューは子供にもよいということで、家族で使いたい気持ちになりました。
---	---

スライドの中央かなたに雪を頂いた富士山が確かに見える。「木の葉の色が変わる」という四季の移ろいに触れているが、外へ出てみるもよし、部屋の窓からも楽しめることを述べている。ロビーに関する部分は「広さと落ち着き」のほかに、雰囲気壊さないように「テーブルやいすにもこだわりをもって選びました」という内容である。

以上のような表現に対しての感想であるが、ナレーションの内容を再確認すると印象に残るのも理解できるものが多い。

D	価格7,000万円を安いと思わせる導入と、「特権」などの言葉で優越感を手に入れたいと思わされます。吹き抜けにヨーロッパのようという説明、イギリスのようと海外の憧れや興味を持たせる表現もいいと思いました。皆で食べるお肉はおいしいというのもよかったですし、キッズルームの子どもへの心配度の少なさや外で遊んでいるような、というのも売り込めると感じました。
---	--

このグループの特徴は感想にあるとおり、日本人の憧れをくすぐる内容である。ヨーロッパ風といってもイギリスを念頭に置いているようであるが、品格と落ち着き、高級感と美しさを軸に展開している。その流れで「キッズルーム」について、感想の内容を補足すると「のびのび遊べる空間」「太陽の光が入り込み、優雅なランチを楽しめます」「壁の色も白を基調とし、清潔感があり」などの表現をしている。

以上の点で一貫性があるものに仕上がっている。

F	四季それぞれの色が楽しめるエントランスのようすは、外でも中からでも見られることが活かされていたのがよかったです。吹き抜けからの景色の説明もよかったです。プールを海にたとえるのはかっこよかったです。外を眺めながら運動できる、しかもジムの利用状況が携帯で確認できるという発想もよかったです。夜までバーベキューができるのも魅力的に感じました。
---	--

表現は違うが各グループとも同じものに触れているのは当然であろうが、視点の違いがそれぞれの特徴になっているともいえる。そういう意味ではFグループの「四季それぞれの色が楽しめるエントランスのようす」もその一つである。「大きな窓があり、朝、昼、夜、どの時間帯にもきれいな景色、自然を見ることができます」というナレーションの部分がある。季節の移ろいとどまらず、季節の中の時間のうつろいに視点を置いているのはこのグループだけの感性といえる。

G	入口について自然が出迎えてくれるというのはすてきだと思いました。品のある輝き、東京の夜景に駆け込んだマンションの良さも頭に思い浮かびました。外に出なくても庭を楽しめるというのは興味をそそりました。プールの温度調整が完璧というのは、毎日行きたい気持ちにさせます。家族サービスにバーベキューコーナーを紹介する説明は、なるほど、うまい！と思いました。キッズルームの部分も、子どもがしっかり見られるし、日の光も入ることが説明されていて好感をもてました。
---	--

Gグループは随所に家族のようすをはさんでいる。プールのスライドでは「子供がはしゃぐ中、親が見守りながらチェアで一休み」。バーベキューコーナーは「毎日家事をしているママも、仕事のパパも、自分のマンションにいながら家族サービスができますね」。そしてキッズルームは「子ども同士仲良く遊ぶことができます」「真ん中はガラスで、目を離れたすきにどこかへ行ってしまうなどの心配もなく安心です」などがそれである。

5. まとめ

「素読からナレーションまでの段階的試み」という視点からまとめる。ただし、後期15回の授業を一括りにまとめるのでは「段階的」ということの意味が伝わらないだろうと考えている。つまり、1回の中にも段階と構成があり、1回1回の積み重ねが「素読からナレーションまでの段階的試み」になるからである。

シラバスにもあるとおり、基礎的な序盤は個人活動、個人の感性を開きたい中盤からは逆にグループ活動を取り入れ、その中での個人活動というように考えた。

グループ活動については、第1時間目に座る座席が指定席となる・今後のグループ割りはその座席を基本とするなどを伝えた上でそれぞれの座席がある。よって活動は互いに話しやすい者同士であることで、取り残されることを避けることができる。

「個人の感性を開きたい中盤からは逆にグループ活動を取り入れ」たことについて、例えば「新聞記事から愛をさがす」「三題漸方式によるニュースの作成」などは個人でもできる。ここで配慮したかったのは、どこから手をつけるかや、どう考えればいいのかなどの入口でつまづき意欲を持たなくなる学生を一人も出したくないということであった。上記

のようなグループ割りによる活動にすることで、かなり活発なヒントのやりとりが見られ、最初から何も手をつけられないということはすべてのクラスで皆無であった。むしろ慣れてくるに従ってより活発になっていった。

さて1回の授業の構成の一例を挙げる。

(ア) 具体的な目標①

「名作の冒頭文・名文・名詩・名歌の10分間素読で、その美しさと作品が醸成してきた精神を感じ取る」の実践

素読から入るか、余話から入るか、構成はその時間の中心テーマによって多少前後させる。第4講の素読では室生犀星の「小景異情二」を選んだ。一度目の素読のあと、「ふるさとは遠きにありて・・・」「うらぶれて・・・あるまじや」「遠きみやこにかへらばや」の犀星の心情などを、現在アパートで一人暮らしをしている学生を引き合いに出し、できるだけ身近に引き寄せたあと再度素読を行なった。

時間の最後を書く「振り返りシート」にある『印象に残った内容と感想』から。

「詩に触れて、その時の情景であったり作者の気持ちも伝わってきたように思える」「一回目に読んだ時と、二回目の内容を理解してから読むのでは全然違うなと思いました」。当然と言われれば当然のことであるが、感じるということはこういうことなんだと、それこそ感じてくれることが目的である。中には作品によって、「美しさを感じる事ができなかった」と感じ取れないことに他の人と違うのだろうかとシートを書く学生がいた。次の時間後、素読に作品を選んだのは教師の主観であり、全てが美しいと感じるとは限らないこと、15の作品のどれかに美しさを感じるものがあったら、その言葉を大切にしなさいと伝えた。

(イ) 具体的な目標④⑤

「文章の中から日本の文化や節季などに触れ、日本人としての感性を磨く」の実践

「文章や詩歌に込められた作者の心情を感じ取り、自分の言葉で表現する力を養う」の実践

第3講では素読の後、時季的にも二十四節気の「寒露」に当たる頃で、そこから「雁」にまつわる言葉をプリントで話題とした。

「振り返りシート」にある『印象に残った内容と感想』から。

「雁の字を含む言葉がこんなに多くあるなんてびっくりしました。文字から情景が浮かんで日本語はきれいだなと思いました」「昔の人は読み方一つで美しい日本語をつくってきたことにすごいなと思いました。今は略語やカタカナを使うことが当たり前になって、丁寧な日本語を書いたり話したりすることが少ないので、美しい日本語を身につけられたらいいなと思います。社会人になるまでに言葉遣いや感性を高めたいと感じました。」

知らなかった美しい日本語への驚きはもちろん、先人の感性の鋭さを受け止め、中には便利になり過ぎた生活が感性を鈍らせていることへの反省を述べた学生もいた。この時間

の中心は「秋の風景を詩情豊かに伝える手紙」を書くことにある。この時間で知った美しい言葉を一つでも織り込んで書くことを伝えた。

文章の巧拙の差は当然出るが、自分の生活を通していろいろな秋の感じ方がある。誰に対して書くかということも表現の仕方に関連する。また話し言葉を使わないことも条件とした。メールなどでのやりとり、授業でも質問に対して単語で答えることが多く、そのことに慣れているだけに、きちんとした文章を書く機会を多く与える必要はどの教科でも感じていることと思う。そういう点も他教科と共有できることだと思う。「美しい日本語」の時間はその上に自分だけが感じ取れることを重視していることも、他教科で何らかの形で還元できればとも思っている。

（ウ）具体的な目標⑦

「読む・書く・聴く・話すをさまざまな形で繰り返し、美しい表現を身につける」の実践

これは第1講以降のすべてに関わることである。先に紹介した第12講から第15講はその総まとめであることは、前述のとおりである。それぞれのスライドをそのまま説明するのではなく、「具体的な目標④」の『日本の文化や節気などに触れ、感性を磨く』⑤『自分の言葉で表現する力を養う』⑦『美しい表現を身につける』ことをすべて含んだ作品を作ることが目標である。

そのような点をふまえ、第12・13講「自然の風物詩」、第14・15講「超高層レジデンス誕生」の学生のナレーション作品とそれぞれの評価について述べてきた。各グループの作品のスライド一枚一枚について、あるいは学生の評価一つ一つについてそのつどまとめたので、ここではそれ以上細かく述べることはない。

総括すれば、表現の仕方はスライド一枚に対する視点の置き方や広がり、また前後とのつながりのストーリー性と全体を通じての一貫性など、よく考えられた作品が多く見られた。内容としての幅は、スライドそのものからいろいろな情報を取捨選択し取り込んでいくところに、その理由がある。言葉の使い方も比喩や擬音語などを取り入れ、素読で読んだ作品の表現をまねる工夫もあった。そのような点に、いかに美しい表現をするかの苦心のあとが感じられた。各グループの発表に対して評価するためにはかなり集中しなければならず、聞く姿勢は申し分のないものであった。さらに自分たちの作品と比較検討する数も適度にあることから、評価する視点のレベルも上がっていったように思う。「超高層レジデンス誕生」は前述したようにプレゼンの要素がかなり入ったものであるが、一つの作品に必ずといってよいくらい聞き手を引きつける表現が入っていた。前に掲載した他のグループの評価にあるとおりである。

また、作品の発表はグループ員全員が前へ出て、スライドショーに合わせて各自の分担のものを順次ナレーションしていく方法で行った。クラスの全員に聞こえるようにマイクを使用したので、ナレーションが聞こえるかどうかの点については問題なかった。発表すること自体も、第4講以降で行なっているので、聞き手にはっきり伝わる話し方が少しずつよくなってきた。始めのころは一部スピードが早かったり、口の開け方が不十分で聞き

取れないこともあったが、その点も改善されてきた。特筆すべきことは、語りかけといってもよい、他の学生の言葉を借りればナレーターに「なりきって」いると感じられるものが増えたことである。課題の発表というより、むしろ楽しんで「聞いてください」という気持ちが伝わってきた。

6. 今後の課題

以上のように「美しい日本語」の授業の意図・具体的な目標から視線をはずさないように、段階を踏んで行った。15回を通して課題と考えられたものを次に挙げる。

① 素読の素材の検討。

小説・詩・和歌・古文・漢文から採ることは変更しないが、より意図にふさわしく、その時間のテーマに合うものに変える必要を感じた。さらに組み合わせ順も検討したい。

② 「ビジュアル」スライドは一部変更する。今回の作品を参考にすると「自然の風物詩」の「中秋の名月」「柿」などは他のものに変更した方がよいと思う。また、「超高層レジデンス誕生」は次年度はプレゼンの要素は残すが、テーマを変えてどの程度対応できるか試してみたいと思う。

③ グループ活動は効果があると考えられるが、グループの適正人数・発表方法等、見当の余地がある。

④ 「美しい日本語」の時間から他教科へ共有できる部分を公開し、他教科教員との情報交換をさらに密に行ない、学生にとって効果の高い授業を目指したい。

⑤ 15回全体の構成を見直し、教養として身につけてほしい部分を強化する。

《参考文献》

- | | |
|---|---|
| 国語の時代 ーその再生への道筋 | 塩原経央著 (ぎょうせい) (2004年再版) |
| 国語教室の実態 | 大村はま著 (共文社) (1977年第7版) |
| 国語科指導資料集 表現・言語編 | 馬淵和夫監修 (東京法令出版) (1982年) |
| 新しい授業の工夫 20選 | 大平浩哉編著 (大修館書店) (1990年3版) |
| 作品別文学教育実践史事典 第2集 | 浜本純逸・松崎正治編 (明治図書) (1987年) |
| 作文教育の方法 | 林大・林四郎・盛岡健二編 (明治書院) (1976年) |
| 美しい日本の名文・名詩・名歌 | 上野和昭監修 (三省堂) (2002年) |
| 賢人の日本語力 | 齊藤孝・金田一秀穂・平田オリザ・坂東眞理子・金子兜太
(幻冬舎) (2012年) |
| 話し合い指導術 | 菊池省三著 (小学館) (2013年) |
| 日本の旧暦と七十二候 | (洋泉社 MOOK) (2013年) |
| 入門 心に響く日本語 | (洋泉社) (2012年) |
| 教育科学 国語教育 | (明治図書) (2013年3月号) |
| SKYZ TOWER&GARDEN (東京ワンダフルプロジェクト) My 不動産予告広告用写真 | |
| 写真: Wikipedia を使用 | |